

23.02.28 ウクライナ戦争から 9 年目

ジェフリー・サックス HP より

<https://www.jeffsachs.org/newspaper-articles/yjae8gc8hp2p293tmt4dlr4z2dpe2s>

ジェフリー・サックスは、アメリカ合衆国の経済学者（開発経済学、国際経済学）。これまで、ラテンアメリカ、東欧、ユーゴスラビア、ロシア政府の経済顧問を歴任、特にボリビア、ポーランド、ロシアの経済危機への解決策のアドバイスや IMF、世界銀行、OECD、WHO、国連開発計画等の国際機関を通じた貧困対策、債務削減、エイズ対策等への積極的な活動を行っている。

日本語訳書

『貧困の終焉 2025 年までに世界を変える』、鈴木主税・野中邦子共訳、早川書房、2006 年

『地球全体を幸福にする経済学 過密化する世界とグローバル・ゴール』、野中邦子訳、早川書房、2009 年

『世界を救う処方箋 「共感の経済学」が未来を創る』、野中邦子・高橋早苗共訳、早川書房、2012 年

欧米の政府やメディアが主張するような、戦争から 1 年の節目ではない。戦争から 9 年目の記念日なのだ。そしてそれは大きな違いである。

この戦争は、2014 年 2 月にウクライナのヴィクトル・ヤヌコヴィッチ大統領が暴力的に転覆され、米国政府があからさまに、そして密かに支援したクーデターで始まった（こちらも参照）。2008 年以降、米国はウクライナとグルジアへの NATO 拡大を推し進めた。2014 年のヤヌコビッチのクーデターは、NATO 拡大に奉仕するものでした。

私たちは、この NATO 拡大への執拗な推進を文脈の中に留めておかなければならない。アメリカとドイツは、ゴルバチョフがワルシャワ条約と呼ばれるソ連の軍事同盟を解体した後、NATO は「1 インチも東に拡大しない」とソ連大統領ミハイル・ゴルバチョフに明確に、そして繰り返し約束した。NATO 拡大の前提はすべて、ソ連との合意違反であり、したがって存続国家であるロシアとの合意違反であった。

ネオコンが NATO 拡大を推し進めたのは、クリミア戦争（1853-56 年）における英仏の狙いと同様に、黒海地域でロシアを包囲しようとするためである。米国の戦略家ズビグニュー・ブレジンスキーは、ウクライナをユーラシア大陸の「地理的要衝」と表現した。米国が黒海地域でロシアを包囲し、ウクライナを米国の軍事同盟に組み込めば、ロシアが東地中海や中東、そして世界規模で力を発揮する力はなくなる、そういう理論である。

もちろん、ロシアはこれを一般的な脅威としてだけでなく、ロシアの国境近くまで高度な軍備を置くという具体的な脅威として捉えていた。特に、2002 年に米国が対弾道ミサイ

ル条約を一方向的に破棄した後、ロシアによれば、この条約はロシアの国家安全保障に対する直接的な脅威となり、不吉なことだった。

ヤヌコビッチは大統領在任中（2010年～2014年）、ウクライナでの内戦や代理戦争を避けるため、まさに軍事的中立を求めた。これはウクライナにとって非常に賢明で慎重な選択であったが、NATO 拡大に執着する米国の新保守主義者ネオコンの邪魔になった。2013年末、EU との加盟ロードマップの調印が遅れたことをきっかけにヤヌコビッチに対する抗議デモが発生すると、米国はこれを機に抗議デモをクーデターに発展させ、2014年2月にヤヌコビッチの転覆に至らせた。

米国は抗議行動に執拗かつ秘密裏に介入し、ウクライナの右翼民族主義的な準軍事組織が登場する中でも、抗議行動を推進させた。米国の NGO は、抗議行動と最終的な転覆に資金を提供するために巨額の資金を費やした。この NGO の資金提供は、これまで一度も明るみに出たことがない。

ヤヌコビッチ打倒のための米国の努力に深く関わったのは、当時国務次官補で現在は国務次官補のヴィクトリア・ヌーランド、当時ジョー・バイデン副大統領の安全保障顧問で現在はバイデン大統領の米国国家安全保障顧問のジェイク・サリバン、そしてバイデン副大統領（現在は大統領）の3人だった。ヌーランドは、駐ウクライナ米国大使ジェフリー・パイアットと電話で、ウクライナの次期政権を計画し、欧州勢に二の足を踏ませないようにしていたことが有名である（「EU なんてクソ食らえ」というヌーランドの粗野な言葉がテープに残っている）。

傍受された会話は、バイデン＝ヌーランド＝サリバンの計画の深さを明らかにしている。ヌーランドは「私がメモを書いた時、サリバンは私に VFR（直接私に）で戻ってきて、君はバイデンを必要だと言った。私は、おそらく明日になるだろう、彼を称賛するためにそして詳細を固めるためには。だから、バイデンは了承している」と言った。

米国の映画監督オリバー・ストーンが2016年のドキュメンタリー映画『炎のウクライナ』は、クーデターへの米国の関与を理解するのに役立つ。私はすべての人にそれを見て、米国による政権交代作戦がどのようなものかを学ぶよう強く勧めたい。彼はマイダンに関するあらゆる証拠を丹念に検証し、暴力と殺戮のほとんどは、ヤヌコビッチの警備隊からではなく、群衆に発砲して警官とデモ参加者の両方を殺害したクーデター指導者自身から生じたことを発見したのである。

これらの真実は、米国の秘密主義と欧州の米国権力への屈従によって、依然として隠蔽されている。米国が仕組んだクーデターがヨーロッパの中心で発生したのに、ヨーロッパの指導者は誰も真実を語ろうとはしなかった。その後、残酷な結末が待っていたが、いまだにヨーロッパの指導者は、正直に事実を語らない。

クーデターは、9年前の戦争の始まりだった。憲法違反の右翼、反ロシア、ウルトラ民族主義の政府がキエフで政権を握った。クーデター後、ロシアは迅速な住民投票によってクリミアを奪還し、ウクライナのロシア人がクーデター後のキエフ政権に反対する側に寝返り、ドンバスで戦争が勃発した。

NATO はほとんど即座に、ウクライナに数十億ドルの兵器を投入し始めた。そして、戦争はエスカレートしていった。フランスとドイツが共同保証人となるはずだったミンスク1、ミンスク2の平和協定は機能しなかった。第一に、キエフの民族主義的ウクライナ政府がその実施を拒否したため、第二に、最近アンゲラ・メルケル前首相が認めたようにドイツとフランスがその実施を強く求めなかったためだ。

2021年末、プーチン大統領は、ロシアにとってのレッドラインは3つであることを明確にした：(1) NATOのウクライナへの拡大は受け入れられない、(2) ロシアはクリミアの支配を維持する、(3) ドンバスの戦争はMinsk-2の実施によって解決する必要がある、である。バイデンホワイトハウスは、NATO 拡大問題での交渉を拒否した。

ロシアの侵攻は、ヤヌコビッチのクーデターから8年後の2022年2月に悲劇的かつ誤って行われた。米国はその後、数百億ドルの軍備と予算支援を注ぎ込み、軍事同盟をウクライナとグルジアに拡大しようとする米国の試みを倍加させた。このエスカレートする戦場での死と破壊は凄まじいものがある。

2022年3月、ウクライナは「中立を前提に交渉する」と言った。戦争は確かに終わりに近づいているように見えた。ウクライナとロシアの両政府高官、そしてトルコの調停者たちから前向きな発言がなされた。私たちはその後、イスラエルのナフタリ・ベネット元首相から、米国がそうした交渉を妨害し、代わりに「ロシアの弱体化」のための戦争のエスカレーションを支持したことを知った。

2022年9月、ノルドストリームパイプラインが爆破された。現時点での圧倒的な証拠は、米国がノルドストリームパイプラインの破壊を主導したことである。シーモア・ハーシュの証言は信憑性が高く、主要な点では一つも反論されていない(ただし、米国政府からは激しく否定されている)。バイデン=ヌーランド=サリバンのチームがノルドストリーム破壊を主導していると指摘している。

私たちは、悲惨なエスカレーションと、米国と欧州の主流メディアによって敷かれた多くにおける嘘または沈黙の道を歩んでいる。開戦1周年という物語全体が、この戦争の理由と終わらせる方法を隠す虚偽である。これは、米国のネオコン新保守主義者が無謀なNATO 拡大を推し進め、次いで2014年の政権交代作戦に米国のネオコン新保守主義者が

参加したために始まった戦争である。それ以来、軍備、死、破壊の大規模なエスカレーションが続いている。

これは、私たち全員を核のハルマゲドンに巻き込む前に、止めるべき戦争である。私は、特に米国政府による大胆な嘘とプロパガンダ、そして米国のネオコン新保守主義者に完全に隷属するように行動する欧州政府による屈強な沈黙に直面して、平和運動の勇気ある努力を賞賛する。

私たちは真実を語らなければならない。両陣営とも、嘘をつき、ごまかし、暴力を振るってきた。双方が手を引く必要がある。NATOは、ウクライナとグルジアに拡大しようとする試みを止めなければならない。ロシアはウクライナから撤退しなければならない。世界が生き残るために、私たちは両者のレッドラインに耳を傾けなければならない。

(新藤通弘仮訳)